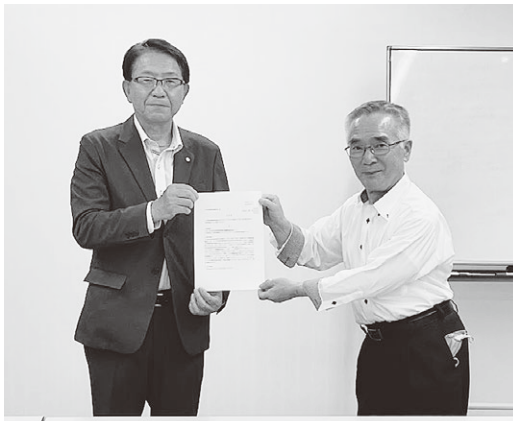


保健福祉施策を審議

只見町保健福祉審議会「開催

只見町保健福祉審議会の第1回会議が6月1日、保健福祉センターで開催されました。この審議会は町長の諮問に応じ、町の保健福祉施策の重要事項を調査審議するために設置されています。第1回の今回は、渡部町長から新国守会長に諮問書が交付されました。

会議では令和8年度から令和12年度を計画期間とする第二次只見町国民健康保険朝日診療所基本計画や、あさくさホームの具体的な活用について審議されました。今後とも会議を開催し、8月に答申書を提出する予定です。



▲諮問書を交付する渡部町長（左）と受け取る新国守会長

只見を心のふるさとに

学生団体えんびやれと町が懇談

学生団体えんびやれと町の懇談会が6月8日に町役場で行われ、学生ら7人が訪れ、渡部町長らと意見を交わしました。

代表の堀金康太さん（大正大2年）が8月に開催予定の夏祭りについて企画を説明しました。堀金さんは「世代を超えて交流できる場をつくりたい。学生がやることに誇りを持つて取り組みたい」と思いを語りました。渡部町長は「若い人の力で地域をかき回せられる。只見町をワールドにどんどん挑戦してほしい」と話しました。今後は学生らと町が協働でイベントの準備を進めていく予定です。



▲若者と地域住民と一緒に楽しむ企画を目指します

シャクヤク畑を視察

内堀知事が来町

内堀知事が6月18日に来町され、只見地区のシャクヤク畑を視察しました。渡部町長らが内堀知事を出迎え、クラウドウ只見の高原豊さんと渡部和子さんがシャクヤク栽培の取り組みを説明し、シャクヤクの花から作られたハーブティーを振る舞いました。

説明を受けた内堀知事は「大事に育てられていて感激。国内で生産されている漢方は少ないが、メイドイン只見のシャクヤクが福島県内の医療で活用されていることは素晴らしいこと。ぜひこの栽培を未来につなげてほしい」と話しました。



▲最後に内堀知事と町の皆さんで記念撮影をしました

救急医療の連携強化を図る

「救急対応勉強会」開催

第1回救急対応勉強会が6月25日、朝日診療所で開催されました。救急医療に対応する知識向上や連携強化を目的に、朝日診療所と南会津消防署の合同で行われました。

講師を務めた佐竹秀一医師は、医師の偏在や救急医の減少がある一方で、会津・南会津地域は受け入れ率の高い救急体制が整っていると話し、一次医療機関である朝日診療所と消防署の連携強化を図る必要性について説きました。また、只見出張所の救急救命士からは救急の現状や対応事例について発表がありました。



▲今後も勉強会を継続し、医療体制の充実を図っていきます

令和8年度 「自然首都・只見」学術調査研究助成金事業の 助成テーマ・研究者グループが決定！

「自然首都・只見」学術調査研究助成金事業は、只見町の自然環境・生物多様性、歴史、民俗、産業に関する調査研究をおこなう研究者に対して助成し、それらの価値を科学的にあきらかにすることで「自然首都・只見」ブランドの向上をめざすものです。研究の目的・内容、わかりやすさなどの観点で厳正な審査を行った結果、今年度は下記の6件について助成を行うことが決定しました。

No.	研究テーマ	助成研究者代表	所 属
1	キタゴヨウの森は、なぜその尾根にできるのか ー只見の自然がつくる山のしくみー	近藤 博史 さん	国土舘大学
2	人為的攪乱が只見町に生息する イワナ在来系群の集団遺伝構造に与える影響	村上 弘章 さん	東北大学大学院
3	只見の山の森は過去・現在・未来で どのように変化するのか？	笥 わかな さん	横浜国立大学 大学院
4	タダミハコネサンショウウオとハコネサンショウ ウオの共存はどのようになりたっているのか？	宗像 優生 さん	筑波大学大学院
5	安全で楽な薪運びを実現する道具を科学的に デザインする！	大橋慎太郎 さん	新潟大学
6	(1)八十里・六十里峠 新潟側の古地籍図の研究 (2)只見の民俗にみる奥会津・越後交流	赤塚 公生 さん	奥会津・越後 交流史研究会

なお、助成研究者は、只見町ブナセンターと連携して調査研究をおこないます。町内で只見町ブナセンターの腕章・ロゴを付けた研究者や車両を見かけましたら、本事業による調査中ですので、皆様のご理解とご協力をお願いいたします。年度内には研究成果発表会を開催する予定です。

【お問合せ】 只見町役場総務企画課自然首都推進室 0241（82）5963